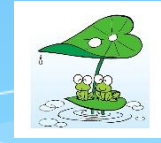


令和6年度 横浜市立四季の森小学校 学校だより

このまちに生き、共に輝く子



四季の森



6月号

<http://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/shikinomori/>

宿泊行事について

学校長 森脇 信行



校庭のタヌキの足跡

あじさいが美しく彩りを添える季節となりました。5月は地域訪問、授業参観にご参加・ご協力いただき、感謝申し上げます。さて、6月は、5日～6日に6年生の修学旅行、13日～14日は4、5年生の愛川宿泊体験学習が計画されています。これらの宿泊行事は子どもたちにとって、大変有意義な、そしてさらにたくましく成長するきっかけとなります。

親元を離れた子どもの様子を寝食共にしてみると、一人ひとりのことがよくわかります。普段学校で見られる様子と同じとうなずけること、あるいはこんな一面があったのかと意外な驚きを感じるなどです。いずれにしても、みる尺度の柱は自立する力と表裏一体の関係にある「生活力」です。「部屋や自分の荷物の整理をきちんとできること」などがその例となります。子どもたちは宿泊学習を通して、できなかったことができるようになったり、気付かなかったことに気付くようになったりします。もちろん、もともとできていた子どもは自分の行動に自信をもつようになります。ただ、子どもの変容は、まだ確かなものではありません。数日間の宿泊行事だけではきっかけをつかんだ程度のもので、まだ定着しているとはいえません。宿泊行事で培われる「生活力」は当然、自立を支える大きな力となります。私は行事を通して「子どもはこんなに成長し、しっかりしたのにこれで終わったらもったいない。」と感じたことが何度もあります。「自分でできることをしっかりやる。自分がやらなければいけないことを確実にやる。」これを学校と家庭の合い言葉として、宿泊行事に向けて、子どもたちの成長を見守りながら準備と事後の振り返りを進めていけたらよいと思います。



校長室前のキクラゲ

校長の独り言

本校の校庭は、毎晩タヌキが遊びにやってくる。雨でグラウンドが柔らかくなっている朝はタヌキの足跡が残っているので「昨晚もやってきたな」と気が付く。足跡から考察するとプールのわきから入ってきて、しばらくうろうろした後東門の方へ向かって出て行っているようだ。たまに、花壇に植えた球根やイモ、フジの木にいたずらをしている。少し迷惑であるがほほ笑ましい。また、校長室前のエアコンの室外機の横の小さな切り株にはキクラゲが生えている。さすが、『四季の森小』名前の通り、自然に囲まれた素敵な学校だと改めて感じるひと時である。